

【令和3年6月新着図書案内】

情報コーナーに新しい図書が23冊入りました！

書名	著者名	出版社	発行年	分類	内容
『市川房枝 —後退を阻止して前進—』	村井良太著	ミネルヴァ書房	2021年	289.1△ アオ	戦前は女性参政権獲得運動を牽引し、戦後は参議院議員として女性の地位向上に努めた市川房枝。その生涯を明らかにし、日本における民主政治の形成と展開について理解する。
『仕事と介護の両立』	池田心豪著	中央経済社	2021年	336.4イ アカ	「介護は育児と違う」というメッセージをもとに、仕事と介護の両立問題の背景や、適切な仕事と介護の両立支援の考え方などを示す。
『多様性との対話 ダイバーシティ推進が見えなくするもの』	岩渕功一編著	青弓社	2021年	361.8イ アカ	多様な差異を互いに認め合って平等に包含し、誰もが生きやすい社会へと日本を開いていくことに向けて、どのような視野、連帯、実践、学びが求められるのかを考察する。
『これからの「共生社会」を考える 多様性を受容するインクルーシブな 社会づくり』	小山望、勅使河原隆行他監修 一般社団法人 日本共生社会推進協会編	福村出版	2020年	361.8コ アカ	老若男女問わず、障害のある人ない人、外国籍の人、経済的に困窮している人など、どんな人でも相互に人格や個性を尊重して支え合い、誰も排斥しない共生社会の実現を目指す。
『失われた賃金を求めて』	イ・ミンギョン著 小山内園子、すんみ訳	タバックス	2021年	366.3イ ミスイロ	「性別を理由にした賃金格差」は実在するという問題意識の上で、韓国で賃金労働をする女性に本来支払われるべきだったのに払われなかったお金の金額を求めてみようという試み。
『災害女性学をつくる』	浅野富美枝、天童睦子編	生活思想社	2021年	367.1ア ミドリ	災害女性学とは何か、なぜ今必要か。災害の中で女性たちが直面する諸問題とその背景要因を解明し、解決に向けての力となる知識や、具体的・実践的ツールとしての必要性を提示する。
『ジェンダーで読む映画評／書評』	杉本貴代栄著	学文社	2020年	367.1ス ミドリ	身近にある書籍や映画を手がかりに、ここ10年ほどのジェンダーをめぐる日本と外国の動向を読み取ってほしいとして書かれた一冊。
『新たな時代のジェンダー・イシュー ～性差と育児、科学と女性を問う～』	信田理奈、村上涼編著	三恵社	2020年	367.1ノ	ジェンダーの視点に立ち、結婚、家族、労働、教育等における男女の性差とバイアスの実態を明らかにし、多様な課題の提示と解決の糸口を探る。

書名	著者名	出版社	発行年	分類	内容
『フェミニストってわけじゃないけど、どこか感じる違和感について 一言葉にならないモヤモヤを1つ1つ「全部」 整理してみた』	パク・ウンジ著 吉原育子訳	ダイヤモンド社	2021年	367.1パ ミドリ	妻、嫁、女という与えられた枠に沿って生きることに違和感を感じる著者が、日常で感じる小さなモヤモヤと同時に、韓国のフェミニズムのムーブメントや関連事件について触れる。
『ジェンダー暴力の文化人類学 —家族・国家・ディアスポラ社会』	田中雅一、嶺崎寛子編	昭和堂	2021年	367.2タ ミドリ	ジェンダーという人間社会を考えるうえで無視できない差異に基づき実施され、ジェンダーによって正当化されるジェンダー暴力の地域的な多様性や抵抗などについて探求する。
『現代家族のリアル —モデルなき時代の選択肢—』	中込睦子、中野紀和、 中野泰編著	ミネルヴァ書房	2021年	367.3ナ キイロ	社会学や文化人類学の家族研究や民俗学の研究成果から、日本の家族の現状と今後について、また生涯にわたる人と家族との関わりについて読み解く。
『家族と国家は共謀する サバイバルからレジスタンスへ』	信田さよ子著	KADOKAWA	2021年	367.3ノ キイロ	国家の暴力と家族の暴力が構造的に相似形だと知った著者が、女性学の成果を吸収し、社会学の言説を駆使して家族の暴力の構造を分析する。
『ステップファミリー 子どもから見た離婚・再婚』	野沢慎司、菊地真理著	KADOKAWA	2021年	367.3ノ キイロ	常識化した離婚・再婚家庭における親子関係のあり方が、歴史的にどこから来て、どのような問題を生みだし、今後どのように変わっていくべきかを論じる。
『「男らしさ」はつらいよ』	ロバート・ウェップ著 夏目大訳	双葉社	2021年	367.5ロ ミドリ	「男らしさ」はなぜ植え付けられ、どのように人生に影響してしまうのか。英国の人気コメディアンが「男の生きづらさ」について綴った半生記。
『婦人保護事業から女性支援法へ —困難に直面する女性を支える』	戒能民江、堀千鶴子著	信山社	2020年	369.2カ ピンク	女性支援法へ向け動き出した婦人保護事業に関して、その間の動向を紹介しつつ、歴史的視点から課題を分析し、改革の方向を検討する包括的な入門書。
『子育て支援の経済学』	山口慎太郎著	日本評論社	2021年	369.4ヤ ピンク	政府が行う育児休業制度や保育制度、児童手当といった諸制度・諸政策について、実証研究や因果関係を重視した経済学研究から得られた知見を紹介する。
『ヤングケアラー わたしの語り —子どもや若者が経験した家族のケア・介護』	澁谷智子編	生活書院	2020年	369シ ピンク	ヤングケアラーとは、ケアが必要な家族の世話をしている18歳未満の子供のこと。7人の元ケアラーが、ケアの経験が自分にとってどういうものであったのかを振り返る。
『女子学生のキャリアデザイン 三訂版 —自分らしさとワークライフバランス』	野村康則、竹内雄司著	水曜社	2021年	377.9ノ ギン	「女性と働き方」「ワークライフバランスと働き方改革」など、学生の就業を取り巻く内外の環境から、社会デビュー後に心豊かな人生を送るための企業選択にまで言及する。
『年齢別！ 子育てママ&パパの頼れる絵本193』	遠藤裕美監修	ユーキャン 学び出版	2020年	599.8エ キイロ	子供の成長に寄り添い、逃したくない絵本選びのタイミングがわかる絵本ガイド。

書名	著者名	出版社	発行年	分類	内容
『あした死ぬには、2』	雁須磨子著	太田出版	2020年	726.1カ チャイロ	中学の同級生で、40歳代となった3人の女性たち。それぞれが直面する悩み、戸惑い、人生の岐路を描いたコミック。
『あした死ぬには、3』	雁須磨子著	太田出版	2021年	726.1カ チャイロ	
『大黒柱妻の日常 共働きワンオペ妻が、夫と役割交替して みたら？』	田房永子著	エムディエヌ コーポレーション	2021年	726.1タ チャイロ	7年間ワンオペ育児を続けた妻が、ある日生活費を7割以上負担する「大黒柱妻」になった。夫と妻の立場が逆転した日常を描く令和の共働き漫画。
『男社会がしんどい ～痴漢だとか子育てだとか炎上だとか～』	田房永子著	竹書房	2020年	726.1タ チャイロ	「痴漢犯罪はなぜなくなるのか」「女が家事育児する前提で作られた社会」「男の利権をつぶすおばさんに仕立て上げられ炎上」の3章からなるコミックエッセイ。